

次の企画に 役立つヒント

劇場やホール、芸術団体などで、実演芸術の企画・制作に関わる方に向けたオンライン講座。収束の見えないコロナ禍の只中で、「次の企画を考えるときに役立つ」知見を持った各分野のプロフェッショナルから学びます。前半はゲストによる講義、後半は参加者からゲストへ直接質疑・相談の形式で、参加者が受講後すぐに実践したくなる「ヒント」が見つかる講座をお届けします。

実施概要	参加無料：各回とも定員 30 名 講座はすべてオンライン会議ツール zoom で実施 (講座終了後には希望者を対象に、ゲストを交えたオンライン交流会も実施予定)
対象	実演芸術に関わる企画・制作・運営などの専門人材を対象。定員に達し次第受付は終了します。
申込方法	下記ホームページ内の専用フォームよりお申し込みください。複数講座の受講も可能です。お申込後、受付完了メールにて当日の zoom リンクをお送りいたします。 [実演芸術連携交流事業] https://www.geidankyo.or.jp/renkeikoryu/ ※各講座とも前半のゲスト講義部分のみ、1ヶ月間限定のアーカイブ配信を予定 (配信開始日や視聴方法については後日ホームページにて発表いたします)



#1

地方公共施設や
小規模な劇場・ホールなどで
企画・運営を担当する方に

3月3日(水) 18:00-19:30



コロナ下の地方公共施設 運営術

Guest: 出口 亮太

長崎市チトセピアホール・長崎市北公民館 館長

いま全国の地方公共施設では、従来からの人材・予算ともに厳しい状況に加え、コロナ対応業務の負担も増える中、事業運営の困難さに拍車がかかっています。本講座では、先鋭的な企画と助成金に頼らない運営モデルで注目を集める長崎市チトセピアホールの出口さんをお迎えし、地元市民や文化団体との協働でリソースを補う、新たな運営モデルについてお伺いします。

いでぐち・りょうた：東京学芸大学で博物館学を学んだ後に、長崎歴史文化博物館の研究員を経て、長崎市チトセピアホールの館長に就任。先鋭的な企画と助成金に頼らない運営スタイル



<https://www.chitosepiahall.com/>

#2

クラウドファンディングや
共感を広めたい企画を
準備している方に

3月4日(木) 18:00-19:30



共感される企画、支援される企画

Guest: 大高 健志

MOTION GALLERY代表
さいたま国際芸術祭2020キュレーター／映画プロデューサー

日本最大級のクラウドファンディング・プラットフォーム「MOTION GALLERY」。昨年3億円以上の支援金を集めた「ミニシアター・エイド基金」をはじめ、文化芸術にまつわる様々なクラウドファンディングを支えてきました。一人ひとりの共感から支援を引き出し、ムーブメントへとつなげていった様々な事例を通じて、「共感を生む企画」のあり方を見つけていきます。

おおたか・たけし：早稲田大学卒業後、2007年より外資系コンサルティングファームで戦略コンサルタントを務めた後、東京藝術大学大学院へ進学。制作に携わった中で、クリエイティブと資金とのより良い関係性の構築の必要性を感じ、2011年クラウドファンディングプラットフォーム



<https://motion-gallery.net/>

#3

SNS広報をもっと
活用したい方に

3月10日(水) 18:00-19:30



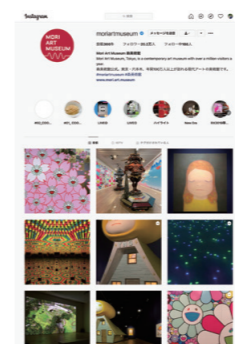
コロナ以降の SNS 広報

Guest: 洞田 貫 晋一郎

森ビル株式会社 森美術館 マーケティンググループ
プロモーション担当 シニアエキスパート

全国の美術館のなかで日本最大規模のフォロワー数を誇る森美術館で、SNSマーケティングを担当し、著書「シェアする美術」も話題となった洞田貫さんをお迎えします。SNS広報の基本から、コロナ期間に実際に取り組まれたSNS施策やオンラインコンテンツの事例も交えながら、コロナ以降のSNS広報のヒントを見つけていきます。

どうだぬき・しんいちろう：2006年森ビル株式会社入社。六本木ヒルズの展望台、ギャラリーの企画・運営、広報などを経て、現在は森美術館のマーケティンググループに所属。美術館のデジタルマーケティング、プロモーションに従事。企業や文化施設におけるSNSの運用についてセミナー、講演も多数。著書に『シェアする美術 森美術館 SNS マーケティング戦略』(翔泳社)。



<https://www.instagram.com/moriartmuseum/>

#4

文化事業の企画制作、
プロジェクト・マネージャー
の方に

3月11日(木) 18:00-19:30



緊急時に、不要不急を見極める

Guest: 帆足 亜紀

横浜トリエンナーレ組織委員会プロジェクト・マネージャー
横浜美術館国際グループ兼学芸グループ グループ長

大型芸術イベントが軒並み中止・延期となるなか、昨年7月に実施の道を選んだ「ヨコハマトリエンナーレ2020」。同展でプロジェクト・マネージャーを務めた帆足さんをお招きします。現場で企画を動かす局面で不可欠となる「何を不要不急とするか」の基準について、そして同展での実践から学んだ「オンライン活用の考え方」について、お話を伺います。

ほあし・あき：英国シティ大学にて博物館・美術館運営修士号を取得。国際交流基金、ニッセイ基礎研究所、アーカスプロジェクトなどを経て、2010年より横浜トリエンナーレ組織委員会事務局の業務に従事。2015年より同事務局プロジェクト・マネージャー。横浜美術館国際グループ兼学芸グループ長。

撮影：大塚敬太 写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会



<https://www.yokohamatriennale.jp/>